

宮崎啓太

「あるユートピアの可能性」

2019.1.13 — 2019.3.24



「白い閃光」(部分) 2018年 53x44x21cm 車のパーツ、紙
Photo: Arisa Kasai

この度、rin art association では宮崎啓太「あるユートピアの可能性」を開催いたします。

宮崎はロイヤル・カレッジ・オブ・アート（ロンドン）彫刻科で学んだあと、2015年、東京藝術大学大学院博士課程を修了し、現在はロンドンを拠点に活動しています。

代表作では錆びた自動車の排気管やエンジンパーツなど、一度は役目を終えた物質が、宮崎自身の手から造形された紙やフェルト、また採取した音などと作品の中で融合され、ぎりぎりの均衡を保つ彫刻として強い存在感を放っています。また新シリーズの《ヴァニタス》では、メタリックで堅牢なケースの中心に車のヘッドライトが据えられています。ヴァニタスは16、17世紀のオランダの静物画に見られる主題であり、バロック期の精神を表す概念の葬祭用の美術工芸品、特に彫刻において虚栄のはかなさを喚起する意図をもっていました。本作ではギラついたヘッドライトの閃光のそばに、使われなくなった道具、インターネット上で入手した世界の砂、作家の行動範囲の中で選択して拾ってきたものなどが置かれ、時間の移ろいや虚栄のはかなさと深く結びついた情感を生んでいます。作家が制作した紙の造形物には、フリーペーパーや古紙、作家のドローイングや昔の証券等が使われ、安価な素材を抽象的に創作に変える作家の意図が表れており、象徴や寓意が散りばめられた本作の中には、ヴァニタスの主題が今日も昔も変わらない生活の普遍性のなかで変奏されています。

宮崎が拠点としているロンドンのメディアでは、「黙示録」的と形容されることが多かった宮崎の作品。オブジェクトを工芸や彫刻・絵画の歴史的な制約から解き放ち、新しい美しさの形を探求することによって、安定した理性をゆるがし、複雑な未来を暗示するかのような象徴的な表現を作り出しています。

本展では2フロアにて作品を展示いたします。弊廊では初の個展となりますので、この機会にぜひご高覧ください。

宮崎 啓太（みやざき けいた）

1983年生まれ、東京都出身。ロンドンを拠点に活動。2013年、ロイヤル・カレッジ・オブ・アート彫刻科修士課程修了。2015年、東京藝術大学大学院博士課程修了。

主な展覧会に2018年「A Mirage of Ruins」rosenfeld porcini(ロンドン)、「Childhood another banana day for the dream-fish」パレ・ド・トーキョー(パリ)、「思考する技術」京都市立芸術大学ギャラリー@KCUA、2017年「After the Deluge」Sala Convegna di S. Apollonia(ベネチア)、2016年「the Tower」LOKO GALLERY(東京)、2015年「Post-apocalypse」Daiwa Foundation(ロンドン)など。

オープニングレセプション 1.13 18:00 - 20:00

[水-日] 11:00 - 19:00 [月-火] 休廊

冬期休廊 12.30-01.06

contact

rin art association

370-0044 群馬県高崎市岩押町5-24

t: 0273-87-0195 e: contact@rinartassociation w: <http://rinartassociation.com>



「Childhood another banana day for the dream-fish」 展示風景、パレ・ド・トーキョー、2018
Photo: Yuichi Kato



「思考する技術」 展示風景、京都市立芸術大学ギャラリー@KCUA、2018
Photo: Arisa Kasai